

(図掲載の際の書式)

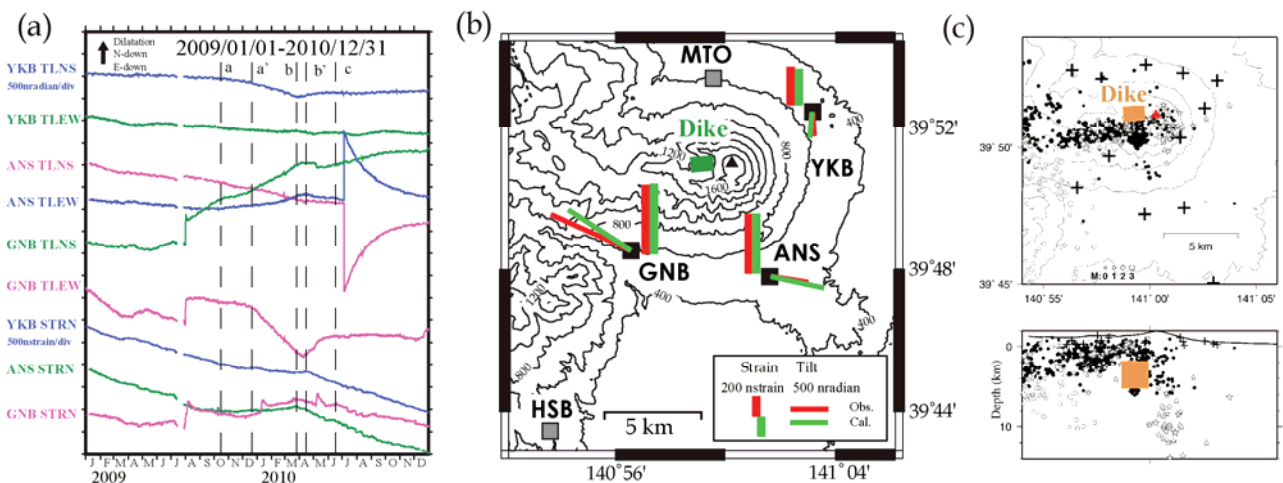


図1. 岩手火山で観測された短期傾斜・ひずみ変動. (a) 2009年～2010年の傾斜・ひずみ記録, (b) 前期 (2009年10月～2010年3月) の傾斜・ひずみ変動観測値 (赤印) とダイクモデルから求めた計算値 (緑印) の空間分布, ならびに, (c) ダイクモデルと1998年活動の震源分布. ダイクは, 1998年活動域の直下に位置し, マグマの貫入を示唆する.



図2. 時間依存インバージョン解析による霧島山のマグマ溜まり体積変化 (国土地理院 [課題番号: 6016])

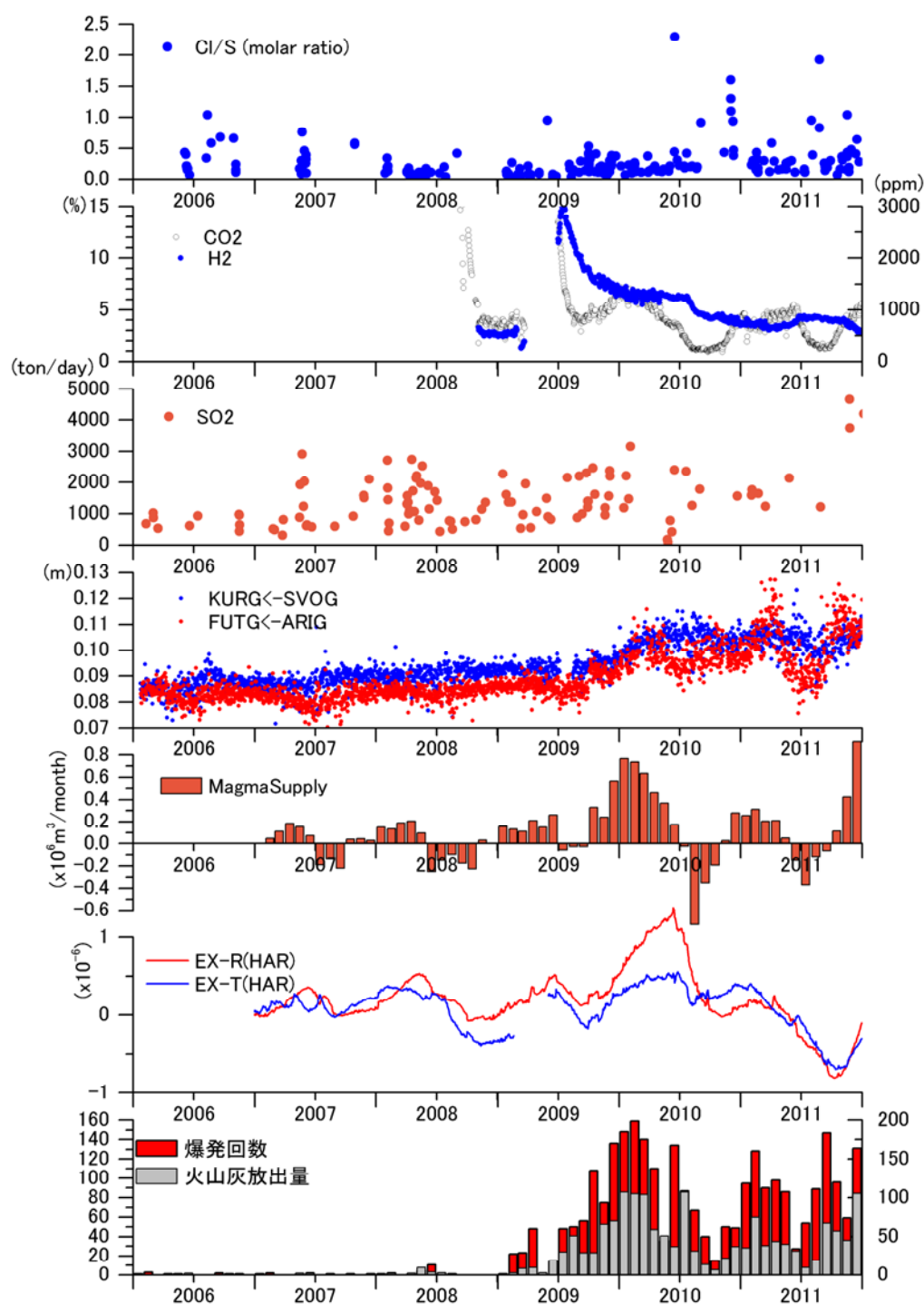


図3. 桜島火山における多項目観測の時系列変化（京都大学防災研究所〔課題番号：1809〕）。1段目：火山灰付着性水溶性成分のCl/Sモル比，2段目：黒神観測井における温泉ガスの二酸化炭素及び水素ガス濃度，3段目：二酸化硫黄放出率，4段目：GPS観測による東西方向（KURG-SVOG）及び南北方向（FUTG-ARIG）の基線長水平成分の変化，5段目：桜島山頂下へのマグマ供給量，6段目：ハルタ山観測坑道におけるひずみ変化（EX1：伸縮計火口方向，EX2：伸縮計直交方向），7段目：月別爆発回数及び火山灰放出量（万トン）

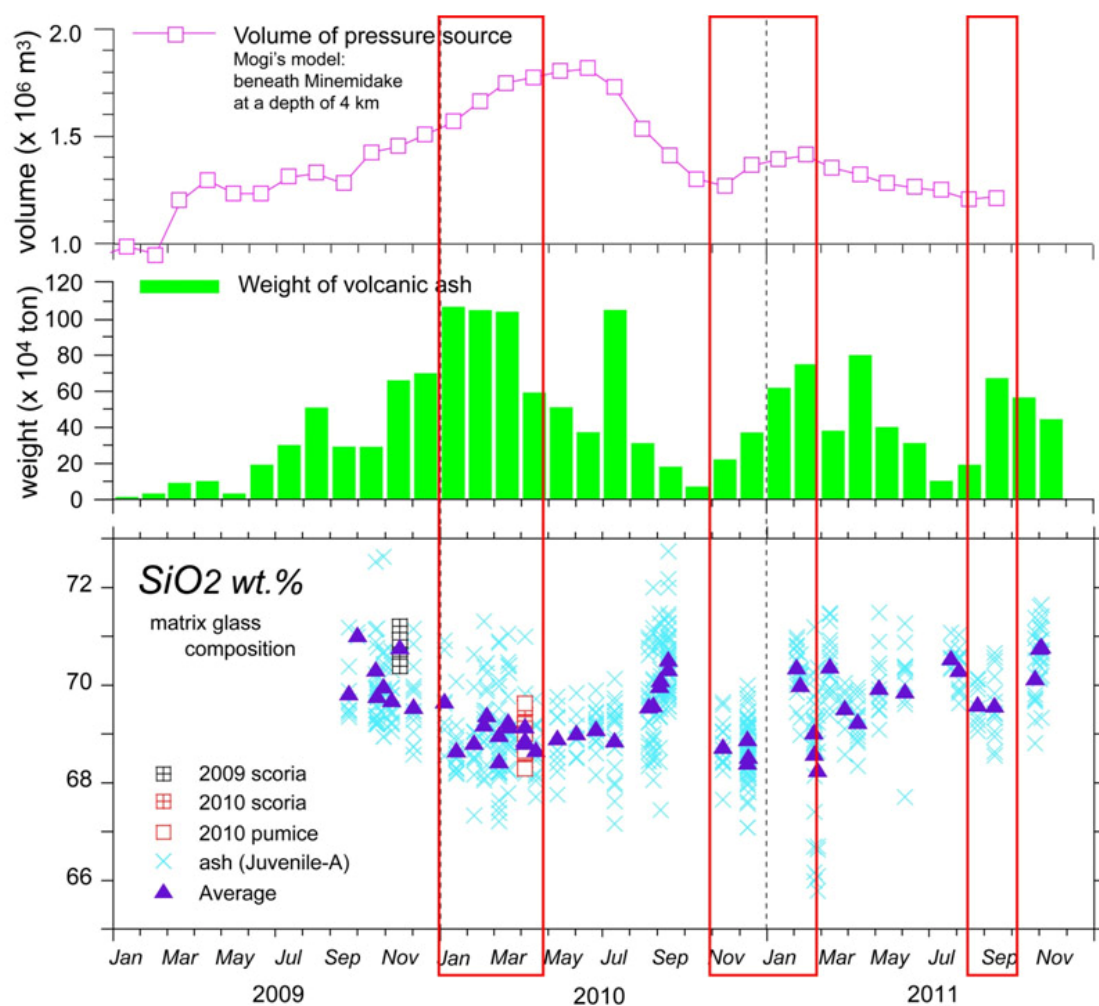


図4. 桜島火山2009年～2011年の地球物理学的観測データとマグマ組成の時間変化の関係（北海道大学〔課題番号：1004〕）．（上）膨張圧力源の体積変化：南岳地下4kmの茂木ソースを想定，（中）月別火山灰放出量，（下）本質物の石基ガラス組成 SiO_2 量．赤枠の時期が活動度が上昇した時期で，その時期にはガラスは SiO_2 が乏しくなり，玄武岩質マグマの混合比が増加していると考えられる。